

女性視点での北上市の課題と解決のためのアイデア

日 時 令和6年3月5日（火）午後1時00分～2時30分（1時間30分）

場 所 北上市保健・子育て支援複合施設 hoKko まなびルーム2

参 加 者 市内で活躍されている女性の皆さん

東北ウェルネス倶楽部 村岡葉子さん

有志 深津咲奈さん、増田明子さん、細田真弓さん、早川千春さん

北上市

市長、まちづくり部長、地域づくり課長、地域づくり課多様性社会推進係長、政策企画課員（※事務局）

以下、開催内容の概要を報告します。

参加して下さった皆様のごく簡単なプロフィール



村岡 葉子 さん（東北ウェルネス倶楽部）

埼玉県出身。北上・仙台市・東京を拠点にフリーランスで活動中。市内でウェルネスダンス教室等を開催。



深津 咲奈 さん（北上巢箱）

静岡県出身。北上市の地域おこし協力隊として3年間活動後、北上巢箱を起業し、プライベートツアー等を開催。



増田 明子 さん（カフェ「マワリテメグル」）

北上市出身。江釣子すずの里で築140年の古民家カフェを運営。4年前に北上市にUターン。看護師等、様々な資格を有する。



細田 真弓 さん（フードコーディネーター）

盛岡市出身。北上市に移住して10年。多品種農家に勤務。「町分マルシェ」や「Kitakami Sunday Morning Market」を立ち上げた。



早川 千春 さん（キャリアコンサルタント）

北上市出身。就職・転職支援の経験を持ち、セルフキャリアドックの導入提案、働くママ向けサービスの提供等を行っている。

 はじめに

▼市長あいさつ

市長に就任して以来、初めてのタウンミーティング開催です。限られた時間ですが、私も本音で皆さんと色々お話ししたいと考えています。よろしくお願いします。

▼タウンミーティングを申し込んだ理由（村岡さん）

私は北上市に来て4年目、フリーランスとして活動しながら色々な人と繋がり、都会にはない穏やかな時間を過ごしています。一方で地域と繋がりを持たず孤独を感じている人もいますようです。今日は、私と同じく北上を愛し、もっと良いまちにしたいという思いを持つ皆さんと、人とのつながりをデザインするアイデアを出し合いたいです。

 意見交換の内容（ファシリテーターは村岡さん）

たくさんの意見が飛び交いましたが、テーマをいくつかまとめてご紹介します。

 北上市の自然や温泉を活用したい

- 深津さん：私は、北上市の地域おこし協力隊で3年間活動し北上市の自然や人に感動しました。今は、北上市の自然と地域の温かい人とのふれあいをもっと色々な人へお裾分けしたい思いで会社を起業し、プライベートツアーやネイチャーツアーを開催しています。
- 増田さん：4年前に北上市へUターンした際、改めて自然の豊かさに感動しました。しかし、自分が若い頃と比較して景観が損なわれている部分もあるようです。景観を整備することで観光地化し、より多くの人に北上市の自然の豊かさを知ってもらえる可能性があります。北上市には天然資源として温泉があるので、温泉施設を有効活用ができれば、天然資源を守りつつ、健康増進と医療費の削減につながるのではないでしょうか。
- 村岡さん：温泉という資産を活用して、多世代の居場所を作ったり、関係人口を受け入れる際の拠点にしたり、あとは企業研修やフィールドワークといった学びの場にできる可能性があります。こういった場を作ることには女性の得意分野だと思いますので、女性の雇用創出の機会にもなりそうだと考えます。クラウドファンディング型ふるさと納税等を活用して資金調達ができるかもしれません。

- 増田さん：具体的にどう活用するか考えると…例えば、地元野菜やお米を中心としたバイキングがあれば、若いお母さんが子どもを連れて来て食育の場にもなりますよね。あとはお年寄りの方からこんな料理があるよと教えていただくこともあるかもしれません。空いているスペースや部屋を貸すこともできそうです。福祉事務所を併設して、「お風呂入りながらちょっと相談していこうかな」と気軽に相談できる場にするアイデアもあります。

👉北上の食を観光に活用したい

- 細田さん：友人から、「これだけ豊かでユニークな食文化があるのだから、観光に活用したらどうか」と意見を貰いました。その仕組みづくりについても意見がもらえたら嬉しいです。例えば、若い方の産直離れが非常に顕著です。これだけ食材の産地と食卓が近く、旬と鮮度が感じられるまちにおいて、スーパーや大規模小売店舗等で買い物を済ませてしまうのは勿体ないです。産直に登録している生産者の高齢化が進んでいますが、若い生産者の登録を促し、食べ盛りの人々に産直へ足を運んで貰えるような仕組みづくりが必要です。私の所属する農園ではグリーンツーリズム体験を提供していますが、小学生くらいのお子さんにも参加いただき、旬の野菜の生え方を知り、採れたてを味わってもらうことが出来たら、食に対する新しい発想が生まれるかもしれません。

👉肩書に関係なくフラットに繋がる事が出来る拠り所が必要

- 早川さん：「北上市の関係人口をどのように増やすか」という視点で北上市の課題を挙げます。市民目線では、①肩書きに関係のない大人同士がフラットに繋がる拠り所がない、②関係人口がより北上ファンになる継続的な仕組みがない、③まちづくりが自分事になりにくいということ。キャリアコンサルタント目線では、④誰もが自分自身のキャリアを考える意識的な機会が必要、⑤仕事と家庭以外でのコミュニティ所属が求められていることです。これらの解決策として、1北上の課題・まちづくりに対して、多様な人材の手を借りるスキームを作る、2フラットな関係性の中で自分自身がキャリアを考える機会をつくる、3まちづくりが自分事になる生命体としてのコミュニティを作ることを提案します。

- 地域づくり課長：早川さんのイメージする“拠り所”はまちの中で気軽に行って相談できるようなスペースのことでしょうか。
- 早川さん：本当にちょっと立ち寄れる、最近の様子を語り合える場所をイメージしています。せっかくの新しい取組を単発で終わらせないために、本当に定期的に、誰もが「あそこ行けばやっているよね」と認知するまで継続することが望ましいですね。そして、ちょっと立ち寄って色々な方と語り合うことが新しい世界を知るチャンスになると思っています。それが何かを始める一歩になる、きっかけになるのではないかと考えます。北上市は人口に対して飲み屋さんが多いまちですので、例えばスナックでお昼に座談会を開くとか、活用が出来ればいいなと思います。
- まちづくり部長：昨年度は“繋がり”をつくるために、情報交換の場として「大人の放課後ゼミナール」を開催しました。皆さんはどのように感じられましたか。
- 村岡さん：全4回の講座で20～30代向け（Aコース）と40代前後の女性向け（Bコース）の2コースがありました。結果から言うと、Bコースの参加者から「こういう場を求めている」と声が挙がり特に盛り上がっていました。Uターンされた方もいましたが、戻って来ても、繋がりを作り直さなきゃいけない状況です。
- 細田さん：40代くらいになると、親の介護やライフステージの変化があって、何かこう「発散したい」というエネルギーがありますよね。この先ちょっと落ち着いたたら、もう一回チャレンジしたいと考えている方が非常に多いなと思いました。学び直したいという思いもあるようです。
- 地域づくり課長：同窓会のような繋がりが出来たと聞きました。
- 村岡さん：そうです。令和5年度の参加者は20名でしたが、5年やれば100人になります。まちへの影響力、インパクトも多少はあるのではないかと。
- まちづくり部長：参加者の中には既にリーダーとして活躍している方もいらっしゃいますが、これからもこういった機会を活用して、さらに活躍される方が増えて欲しいと思います。

📢 活躍しやすい北上市であるために

- 地域づくり課長：活躍しやすい北上であるためには、こういう環境があればいいという意見はありますか。
- 細田さん：女性が妊娠や出産をすると、一度キャリアが止まってしまいます。復

職される方、退職される方、パートを選ぶ方、様々いらっしゃいます。私の勤務する農園では、出来れば継続した年間雇用をして人を育てたいという思いがあります。シフト制の勤務とし、午前中だけ、子供を送ったあとの 10~12 時まで等、細々とでも働き続けてもらえるよう工夫しています。周りの農家さんですと、農繁期だけとか、半年だけとか期間的な雇用しかできないところがほとんどです。その期間雇用のマッチングを、ぜひその主婦の方々と出来たらいいのではと考えています。食の旬はどんどん移っていきますから、人手を必要とする時期は農家さんごとに変わっていきます。日本全国で見ると、その旬を追いかけて農家で就労するフリーランスの方もいらっしゃいます。多様な農業を 1 つの職業としてとらえ、女性の働き方を模索して楽しい形に仕上げていければと考えています。

■ **地域づくり課長**：そういった新しい働き方は、単なる労働力としてではなく、北上市の関係人口としても捉えられそうですね。

これまで不足していた、それぞれの思いをぶつける場、マッチングさせる場を提供したいとの思いから、「まちづくりマッチングフェア」というイベントを企画したのでぜひ活用ください。

📍北上市民が北上に愛着を持つ

■ **深津さん**：北上市はよそ者を受け入れる風土があり、何かやりたいと思ったときに、やってみようと呼んでくれる方が多いところが凄い点です。しかし、北上市民の方が北上に愛着があるかという点と正直疑問です。私が好きだった市内の温泉は知らないうちに閉業していました。温泉を好きな人や近くに住む市民が利用しないことで、このように北上市の宝が失われるわけです。先ほど話題に挙がった産直も同様です。北上市民の市に対する愛着が少ないということと、市の宝物が減りつつある課題をつなげて解決できればハッピーですね。

■ **市長**：関係人口が話題に出ましたが、今月の広報きたかみに掲載する私のコラムでも定住人口と交流人口と関係人口について書きました。話の中でご指摘があったとおり、北上市民の中でも北上のことを良く知らないという方々がいらっしゃるかもしれません。小さい頃から北上市の良い所を見つけてもらって、市外に出たとしてもいつかまた戻って来てもらえる、拠点の一つとしてもらえるのであれば嬉しいですね。

📢 色々な場所を訪れて欲しいから、二次交通を充実させたい

- 深津さん：北上市内に二次交通がないことが辛いです。北上市に観光などで都心から来る人は車を運転できない人が多いからです。市には観光で勝負できるくらいの資源があるのに、お客さんが運転できる人に限られてしまいます。
- 地域づくり課長：和賀地区には乗合タクシー「のりたくん」という地域内交通があって運賃は200円です。観光客にはあまり馴染みがないかもしれませんが、運行ルートと観光客が乗り降りしたい場所が上手く合えば、使っていただけますよ。
- 村岡さん：先日、オーストラリアから友人が遊びに来た際も、市内の交通が不便だと感じました。シャトルバスも運行していますが、道端にぼろっと落とされるので、そこから別の目的地へ移動するにはかなりの距離を歩かないといけないこともあります。
- 市長：夏油高原スキー場には海外から多くの方がいらっしゃいますが、おそらくレンタカーや駅発着の観光バスで来たのでしょう。でも、ウィンタースポーツの季節ではない夏は同じような移動は出来ないかもしれませんね。
- 村岡さん：実は私、夏油高原に来ているお客さんをどうにかしてまちに誘導できないかと思って、週に1回、夏油高原でアルバイトをしながら潜入調査をしています。深津さんが実施されているプライベートツアーと結びつけて、他の観光地にも足を運んで貰いたいです。地域の人と関わることや、地元野菜を食べてもらうことで楽しかったと思って貰うことができれば、何度も訪れたい場所になりますね。

🌸 感想（振り返り）

- 村岡さん：今日はお時間をいただきありがとうございました。皆さんが普段感じている課題を我々同士でもシェアする機会になりましたし、これまでなかなか市役所の皆さんと意見を交わすことがなかったので貴重な時間となりました。これからも継続的に情報交換出来ればと思います。
- 市長：今日は、皆さんから建設的なご意見をいただき、私も勉強になりました。今日ご参加いただいた皆さんは北上市のキーマンです。市内に今いる子どもから高齢の方まで、北上の良さを共有して、それをもっと

伸ばすためにはどうしていけばいいのかというのを、これからも継続的に皆さんと情報交換していきたいと思っています。今日は本当に色々な気づきがありました。ありがとうございました。



集合写真



お問い合わせ先

北上市企画部政策企画課 行政経営係

電 話：0197-72-8224

メール：kikaku@city.kitakami.iwate.jp